

もちづき亮佑 衆院大阪18区 国政対策委員長

活動ニュース No.22



2021.04.30 発行：日本共産党 衆院大阪 18 区選対本部 Tel:072-437-8411/Fax:072-437-8414 【部内資料】

4/24 民青フードバンク@桃大前 (4/27 Facebook 掲載)

アルバイト減・生活苦・オンライン授業 学生取り巻く矛盾は一層深く

24日の午後、民青阪南地域連絡会が和泉市の桃山学院大学前でフードバンクを開催しました。私も、少しばかり設営のお手伝いをさせてもらい、併設されたアンケートコーナーで学生さんから話を聞かせてもらいました。

この日は前回と比べても沢山の学生さんが集まって、用意した物資がなくなるのが早かったようです。

「生活はどうか？アルバイトはありますか？」と尋ねると、ほとんどの学生さんが「アルバイトが減って生活に影響が出ている」ということでした。なかには緊急事態宣言の発出で働いていたお店が休業になってしまい困っているという声もありました。状況は深刻さを増しています。自粛と一体の保障が、学生さんの生活を支える上でも強く求められます。

今回の取り組みで印象的だったのは、私の方から尋ねると、身の回りの色々なことを本当によく話してくれるということです。聞けば、大学の講義はほとんど全てオンラインに移行したようで、そもそも下宿から外に出る機会が少なく、直接人と会うことが減っているとのこと。このフードバンクが、久しぶりに人と話す機会だったという学生さんもいたのかもしれませんが。

オンラインの講義は感染防止が目的なので、人と会う機会が減るのは当然と言えば当然のことなのですが、収入が減って、生活は苦しく、食べるにも困り、人とも

会わないという生活がずっと続くと、心労が重なることでしょう。気の毒です。

学業以外の活動もかなり制約されているようです。フォークソングのサークルを作っているという学生さんにも話を聞きましたが、ここ一年ほど

はほとんど活動していないとのこと。この事態が文化やスポーツへも多大な影響を及ぼしています。

やはりもともと経済力がない分、若い年代には色々な矛盾のしわ寄せがいきやすいのです。こうした支援活動に敬意を持ちつつ、しかし、同時に政府や自治体が支援を強めるべきだと改めて感じました。そして、根本的には今のこの事態を収束させるため、政治が全力を尽くさなければなりません。率直に言って今の政権にそれは期待できません。政治を変えることが何より求められます。

新型コロナ収束へ、更に力を尽くしたいと思います。



4/20 忠岡町でつどい

3密回避を徹底し支部事務所でつどいを開催 党勢拡大へ更に意欲

20日の午後、忠岡支部がつどいを開催。望月も参加しました。

参加者は、対象者の方お一人と、忠岡町議団と支部の方がお一人で、合わせて6人。市委員長の記念講演DVDを視聴した後、私を交えて懇談、衆院選を控え力をお借りしたいと入党してほしい思いを率直にお伝えしました。対象者の方へ共産党のことを知ってもらう良い機会にできたと思います。

既に大阪では感染者が連日1000人を超える下でのつどい開催でしたが、参加者は全員マスクを着用し、支部事務所の窓と扉を開放して常に換気を行うなど感染対策を徹底。飛沫感染が起こりえない環境を整えれば、少人数でのつどい開催は決して不可能ではないと実感しました。

今回のつどいを受けて、町議の二家本英生さんは「次回は若い人も」と話しています。つどい開催が党勢拡大への意欲にもつながっています。

